

# 地域ワーキング提言

本地域ワーキングでは、アクションプログラムの見直しにあたり、地域の課題や重点的に整備すべき項目等について平成24年8月から3回にわたって議論してきた。この地域ワーキングでの議論をふまえ、今後、真に必要な道路整備が無駄なく着実に推進されることを願い、以下に示す事項を地域ワーキングからの提言とする。

## 1. 広域道路ネットワークの整備

甲賀地域(甲賀市、湖南市)は、新名神高速道路の開通とインターチェンジ(甲賀土山・甲南・信楽)の設置、国道1号バイパスの整備等により、広域交通の面では利便性が向上した。その一方で、既存の幹線道路(主に東西方向)を結ぶ南北方向の幹線道路は未だ十分とはいえない状況であり、また交通渋滞を回避する自動車の生活道路や通学路への流入に伴い、子どもや高齢者への事故等の危険性が増加している。そのため、インターチェンジ等へのアクセス道路の整備や、南北方向の幹線道路の強化が求められる。広域道路ネットワークの整備推進による、地域間交流の促進や地域経済の活性化が望まれる。

## 2. 道路ネットワークの戦略的な整備・活用

道路管理者の連携による道路ネットワークを構築し、時代やニーズの変化に応じて柔軟な道路整備や道路管理を進めていくことが重要である。併せて、財政状況を見据えた効率的な道路施設の更新、維持管理が求められる。

## 3. 誰もが利用しやすく、人にやさしい道づくり

本地域は歩道の未設置区間も多く、交通弱者(高齢者・子ども・車いす利用者等)の移動時の危険を低減するためにも、安全・安心に移動できる歩行空間の整備や、車いす利用者等を含めた誰でも円滑に移動できるユニバーサルデザインによる歩道整備の推進が求められている。特に、通学路や生活道路等においては、関係者と連携しながら、高齢者、子ども、自転車利用者等を事故から守る交通安全対策の一層の推進が必要である。

## 4. 災害時における信頼性の高い道づくり

災害に強い道づくりを、広域的なネットワークの中で考えていくことが重要である。東日本大震災をふまえ、災害時に代替路線として機能する道路整備の推進が必要である。